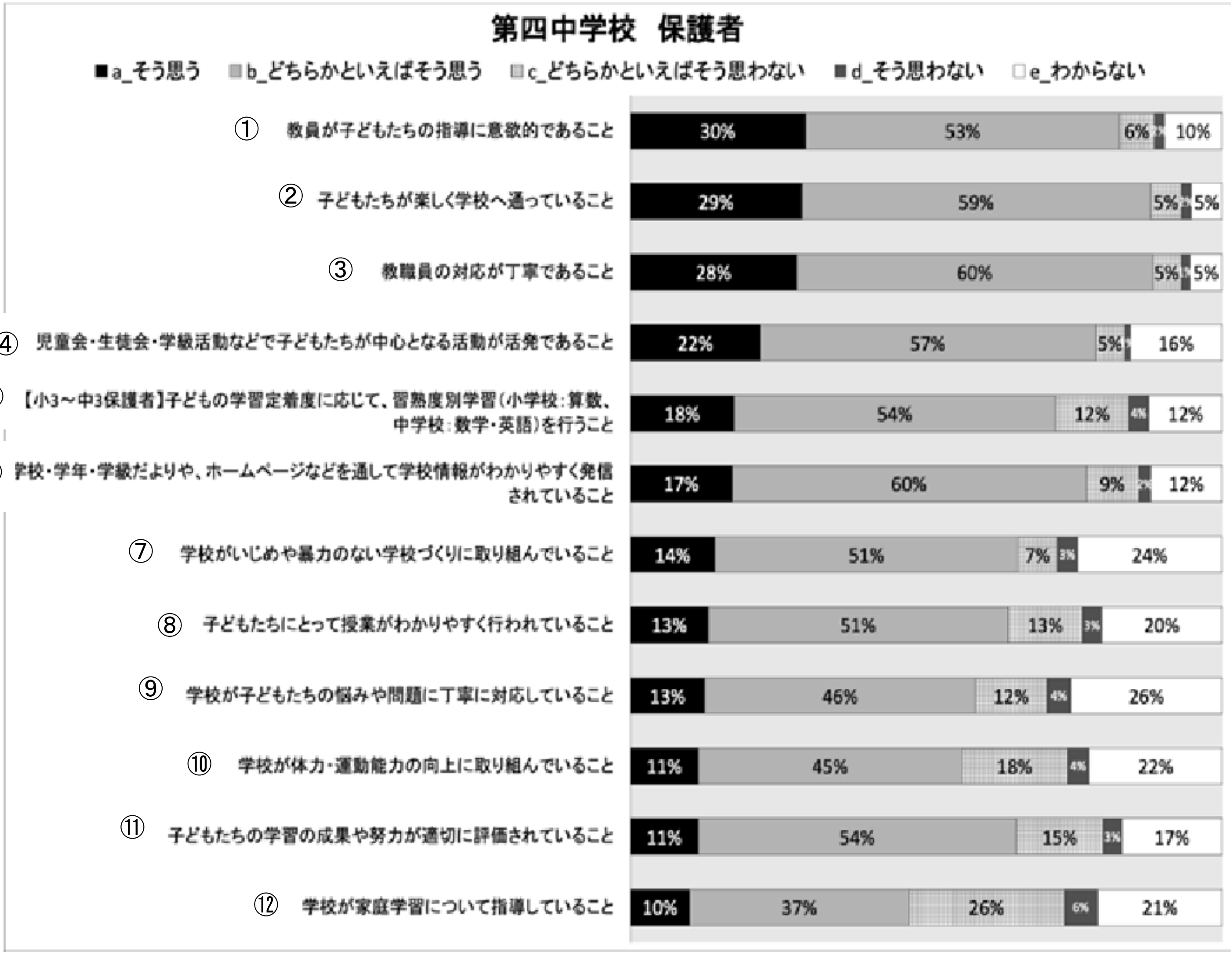
平成30年度　三鷹中央学園　学園・学校評価アンケートまとめ

【第四中学校】

アンケート実施日：	平成３０年１０月２４日～３１日
アンケート対象者：	第四中学校保護者
回　収　率　　：	３５３世帯／３６３世帯　（９７.２％）



アンケート結果から得られた課題

※「肯定的回答」…「よくできている」「だいたいできている」の合計
※「否定的回答」…「あまりできていない」「できていない」の合計

１　それぞれの質問項目に対する肯定的回答の割合には大きな変化は見られませんでしたが、肯定的回答の割合が高い３項目、①「教員が子どもたちの指導に意欲的であること」、②「子どもたちが楽しく学校へ通っていること」、③「教員の対応が丁寧であること」については、いずれも肯定的回答の割合が増加しました。それでも、学校はすべての子どもたちが楽しく通うことを目指し、「子どもたちが楽しく学校へ通っていること」についての肯定的回答の割合１００％を目標として、生徒同士の関係の質及び生徒と教員の関係の質を高めます。

２　最も否定的回答の割合が高かったのは⑫「学校が家庭学習について指導していること」でした。定期テスト前の学習計画表作りと毎日の計画表点検も家庭学習指導であり、家庭学習の時間が増えたと回答している生徒も６０％を超えています。取り組みの周知方法についても工夫したいと思います。

平成30年度の【第四中学校】の取組　成果と課題

成果

今回、保護者対象の各設問では、肯定的回答の割合の合計が昨年度よりも17ポイント上昇しました。

1　基礎的・基本的な学力の徹底について

都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(5教科実施)では、各教科の平均正答率が、すべて都の平均正答率を超えています。「全国学力・学習状況調査」(国語・数学の2教科実施)でも、主として知識に関する問題の平均正答率が都・全国の平均正答率を超えています。生徒対象のアンケートでは、「学校の授業がよくわかる」に対する肯定的回答の割合は81%、教員対象のアンケートでは、「基礎・基本の定着を図る授業を実践している」に対する肯定的回答の割合は96%でした。このことから、今年度の重点目標のひとつである、「基礎的・基本的な学力の徹底」は一定の成果を上げたと考えます。

今後も、基礎的・基本的な学力が徹底できるよう、三鷹市小・中一貫カリキュラムも活用しながら、9年間の指導計画の中で、つまずきを速やかに解消する指導や、下学年の既習事項を意識した指導の充実を目指します。

2　学校での集団生活を仲間とともに創造し、帰属意識を高めることについて

生徒アンケートでは、「生徒会・委員会・係活動にすすんで取り組んでいる」に対する肯定的回答の割合が84%、「学校の部活動にすすんで取り組んでいる」に対する肯定的回答の割合が76%でした。運動会、わたしたちの音楽会ではそれぞれ、体育的行事委員会、文化的行事委員会が中心となり、組織的・計画的に指導にあたり、「行事団結・完全燃焼」をキーワードとして完成度の高い行事とすることができました。どのクラスも、取り組む過程を大切にして団結力を発揮し、生徒の満足度も高いものとなりました。

課題

１　基礎的・基本的な学力の徹底について

「基礎的・基本的な学力の徹底」は一定の成果を上げたものの、保護者アンケートでは、⑧「子どもたちにとって授業がわかりやすく行われていること」に対する肯定的回答の割合は６４%、わからないという回答は２０%でした。

家庭学習に関して、教員アンケートでは、「家庭学習の充実に向けた取り組みをした」に対して、「十分満足できる」の回答割合は５４%、「おおむね満足できる」の回答割合は、４６%でした。また、生徒アンケートでは、「家庭学習の時間が増えた」に対する肯定的回答の割合は６３%でした。ところが、保護者アンケートでは、⑫「学校が家庭学習について指導していること」に対する肯定的回答の割合は４７%にとどまり、否定的回答の割合３２%、わからないとする回答の割合が２１%でした。

このことから、基礎的・基本的な学力の徹底について、学校からの情報発信不足や家庭との連携不十分が課題として考えられます。

今後は、三鷹中央学園パワーアップアクションプランや三鷹「学び」のスタンダード（家庭版）などを活用しながら、情報発信や家庭との連携充実を目指します。

２　将来への夢や希望をもち、その実現に向かって自ら歩む態度を育てることについて

生徒アンケートでは、「自分の将来について考えている」に対する肯定的回答の割合は６９%、「学校で勉強することは、将来の自分の役に立つと思う」に対する肯定的回答の割合は８６%でした。ところが、夢や希望をかなえるために重要となる、自己肯定感・自己有用感を問う「自分は誰かの役に立っていると思う」に対して、「そう思う」と回答した割合は１６%に留まっています。「まあ、そう思う」まで含めれば５８%になるものの、４割以上の生徒は自己肯定感・自己有用感が低い状態です。生徒アンケートでは、「生徒会・委員会・係活動にすすんで取り組んでいる」に対する肯定的回答の割合が８４%であり、活動を認め、励まし、褒めることで、生徒の自己肯定感・自己有用感を育んでいきます。